

UDCびわこ・くさつ アーバンデザインスクール

小さな空間から都市をプランニングする

なぜ小さな空間から都市をプランニングするのか



阿部大輔・武田重昭

2019年11月20日

本スクールの目標

私たち「都市空間のつくり方研究会」は、日本都市計画学会の社会連携交流組織として、実際に都市に大きな影響を与えている小さな空間についてのスタディを重ねてきました。多くの空間を実際に歩き、その空間に携わった方々とのご論を経て、私たちはいま「小さな空間から都市をプランニングする」ことが必要だと確信しています。

私たちが考える都市のプランニングとは、はじめから都市の全体を理論で構築するのではなく、具体的な空間での解を重ねた先に都市の全体を彷彿とさせるような方法です。

本スクールでは研究会の内容を追体験して頂くとともに、参加者の皆さんとの議論を通じて、草津の実際の空間のつくり方を変えることで、大きな都市に与える変化の兆しを好ましい方向に導くような機会になればと思っています。

どのような都市空間を事例調査の対象にするか？

【リビング問題：リビングの公共性】

- ・特定の人しか入れない空間ではなく、だれもがアクセスできる空間を対象とすべきでは
- ・都市空間における**プライベート／パブリック**の境界はどこにあるのか
- ・私有地でも行政が支援できるような名目がある空間であればいいのでは
- ・公共の福祉に資する空間
- ・**公共性をおびた空間**であることが重要
- ・誰にとってのいい空間とするか
- ・説明を聞かなくても、はじめて見た人でもいいと思える空間がよいのでは

【野毛問題：プランニングと偶発性】

- ・誰かが意図したわけではなく、結果できあがった都市の魅力をどうあつかうのか
- ・すべてプランニングしつくすことが魅力的な都市をつくるのか
- ・意図されてつくられた空間と**非意図**による空間の魅力
- ・**空間の再現性**があること
- ・**複数の主体**が関わってつくられた空間であること
- ・目に見えて顕在化されていない魅力としての「**場所の力**」、将来のポテンシャル等をどう扱うか

【篠山問題：空間スケールの広がり】

- ・一つひとつの事例はそれほどでもないが、群として篠山らしさを演出しているような都市のイメージを向上させている事例など、広がりのあるものをどう扱うのか
- ・一つの**プロジェクト単位**という切り口で調査し、連動した動き、波及効果として扱えば良いのでは

【石畳問題：既知の都市計画の成果】

- ・何十年前前から**既に価値の確立している手法**によってつくられた空間を対象とするか
- ・手法が「ベタ」かそうでないかの区分け

【ツバメの巣問題：物語のある空間、もしくは空間構成要素の魅力】

- ・いい物語りでつくられた空間、「**いい話**」空間をどう扱うか
- ・**デザインの質**が高い空間であることが必要
- ・空間を構成する要素がいいだけでなく、**敷地単位以上の構成要素**を持つ空間を対象に
- ・ツバメの巣のためにつくられた小屋根が連続する街並みならどうか

【窓辺のおじいちゃん問題：私的体験の魅力】

- ・私的体験の魅力だけでは公共性が低い(ツバメの巣問題の「いい話」空間と類似、住み開きの事例も同様)
- ・たばこ屋のおばあちゃんなど誰もが体験できる空間ならよいか
- ・空間デザインの質が問えるか
- ・取りまとめる時に**キメ(その空間の魅力が伝わる)写真**が撮れるかどうかという視点

【甲子園問題：特定の人にとっての聖地とその一般化】

- ・ハンドボール界の甲子園はハンドボールファンにとってはいい空間
- ・甲子園などその魅力が一般化されている空間は対象か
- ・ある個人の**主観**がだんだん広がって**コモンセンス**になるとすれば、その境界はどこか
- ・消費社会が支える都市の魅力という視点もあるのでは
- ・空間デザインの質が問えるか

小さな空間

個々の空間の質は高く、うまくマネジメントされている

空間のリアルな魅力の向こう側に都市の存在が感じられるか

小さな空間の価値を大きな都市へつなぐことができるか

都市空間のレシピ より

WHAT

都市空間の魅力とは何か？

HOW

それはどのようにつくられたのか？

空間から都市の順序で

いきなり都市はつくれない。

私たちにできるのは目の前にある小さな空間を変えていくことだけである。

しかし、そのつくり方を少し変えてやることで都市全体としての魅力をつくるのが可能になるはずだ。

都市をプランニングする

従来の全体性からはじめる計画とは違う。

小さな空間のつくり方を変えることで、
都市の変化を好ましい方向へ導いていく。

都市の部分と全体とのつながりをはっきりと
感じられるもの、目に見えるものにしていく
「プロセス」のこと。

(完成した) **プラン** より

(未完の・進行中の) **プランニング**

はじめに | なぜ小さな空間から都市をプランニングするのか

1章 小さな空間のつくり方から学ぶ

1・1 前例によらない行政の挑戦

- ①問題なくつくるという固定概念を外す | なぎさのテラス(大津市)
- ②見えない資源を見つける | 道後温泉(松山市)
- ③都市計画遺産を現代的に再生する | みなと大通り公園(鹿児島市)
- ④余白をデザインする | KIITO(神戸市)
- ⑤持続性を前提としない | まちなか防災空地(神戸市)
- ⑥空き地のままの豊かさを見せる | みんなのひろば(松山市)

1・2 ビジョンを示す民間の選択

- ⑦水辺の魅力をまちにつなぐ橋 | 浮庭橋(大阪市)
- ⑧地域のビジョンを実践でかたちづくる | 丹波篠山(篠山市)
- ⑨民有地をまちに還元する | 北加賀屋(大阪市)

1・3 自負心が支える市民の営み

- ⑩攻めの対話で継承する | 姉小路界隈(京都市)
- ⑪まちのベクトルを上向きにする | 仏生山まちぐるみ旅館(高松市)
- ⑫3㎡からはじめるまちづくり | おやすみ処ネットワーク(戸田市)
- ⑬都市を読み、文化的に暮らす拠点 | コトブキ荘(豊岡市)
- ⑭隙間の活動を地域価値として見出す | 五条界隈(京都市)
- ⑮余地でつむがれる地域の意図 | 奈良町(奈良市)
- ⑯建物とその先の時間も引き受ける | 善光寺門前(長野市)

編 / 日本都市計画学会 都市空間のつくり方研究会

小さな空間から 都市をプランニングする

編者
武田重昭・佐久間康富
阿部大輔・杉崎和久

著
松本邦彦・高木尚哉・有田義隆
栗山尚子・石原凌河・片岡由香
白石将生・吉田 哲・山崎義人
松宮未来子・片桐新之介
南 愛・穂苅耕介

学芸出版社

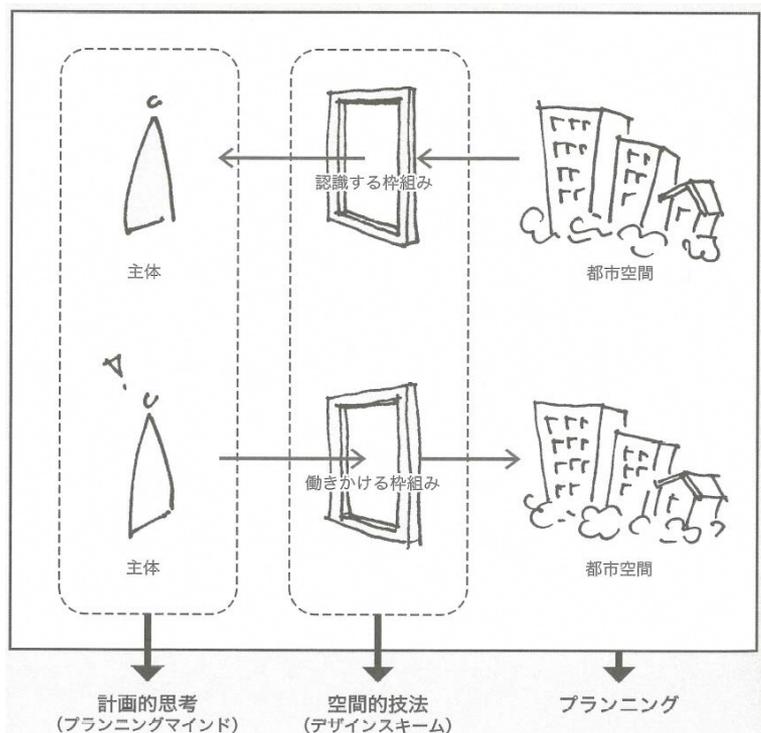
推薦！
「点」の営みから
「景」としての
都市への動的なプロセス
—— 紫牟田伸子(編集家) ——
都市を変えてしま
う
小さくても
大胆な試みの
衝動と戦略
—— 梶原伸(都市計画家) ——

2章 小さな空間と大きな都市の関係をとらえる

プランニングを進める空間的技法と計画的思考の両輪

2・1 デザインスキーム——低成長期の都市を変える空間的技法

2・2 プランニングマインド——都市全体を見つめる計画的思考



デザインスキーム（空間的技法）

都市空間を認識する／都市空間に働きかける枠組み

プランニングマインド（計画的思考）

都市空間を認識しよう／都市空間に働きかけようとする主体の意思

自分たちのまちを楽しくしたい、面白くしたい...
という計画的思考を持った人たちが描く、共感を経てやわらかく変化するまちへの思いを、
都市計画はどう受け止めれば良いのだろうか？

3章 小さな空間から都市をプランニングする

小さな空間の価値を大きな都市につなげる 10の方法

3・1 小さな空間を連帯させて都市の効果を高める

- ①都市の「ツボ」を探す
- ②空間を地域に開く
- ③エリアの外側への影響を踏まえる

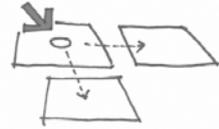
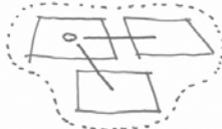
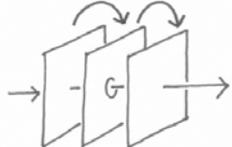
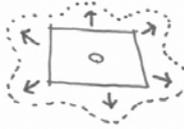
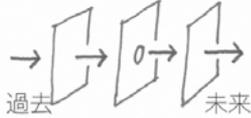
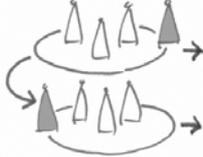
3・2 小さな時間を積み重ねて都市の魅力を育てる

- ④テンポラルな空間が作り出すもの
- ⑤「計画」をリノベーションする
- ⑥ゆっくりと時間をかけて育てる

3・3 小さな共感を生むことで都市の全体像を描く

- ⑦プロセスそのものを目的にする
- ⑧行政のリーダーシップからフォロワーシップへ
- ⑨ユニバーサルからダイバーシティに向けて
- ⑩まちに対する期待を高める

おわりに | 都市の未来に対する期待と自負

方法①  都市のツボを探す	方法④  テンポラリーな実践を重ねる
方法②  小さな単位を連帯させる	方法⑤  計画をリノベーションする
方法③  外側への影響を踏まえる	方法⑥  時間をかけて育てる
方法⑦  プロセスを目的にする	方法⑨  多様性を持つ都市につなげる
方法⑧  行政の役割を変化させる	方法⑩  まちに対する期待を高める